

神奈川 山梨教会連合会報

# かりん

## 今こそ大切「祈り」と「お取次」

☆1997年から2001年にかけて、ハワイで御用をされていましたが、ハワイに行く前と後では、日本は変わったと感じたりすることはありますか。

浩子先生(以下、浩) 帰ってきた時にはそれほど変わったとは思いませんでしたが、あのニューヨークでの9・11事件が起こって以来、随分変わったと思います。

☆特にどういった部分が変わったと感じられますか。

浩 「まず、セキュリティ社会」になったと思います。防犯カメラや子供にGPSの付いた携帯を持たせることなど、今は当たり前のようになってきましたね。それは犯罪から身を守る為に大切なことなのですが、一方でそれによって、不安な気持ちを増幅させられているようにも感じます。

☆そう言えば、暗いニュースも多いですし、テレビの特集でも「身を守る・防犯対策」など、よく放送されていますね。

浩 自分にとっての「敵」はわからないのだけど、「見えない、何か解らないけど嫌な物から、自分を守らないといけない」と

いう考えが、日本を覆っているように感じますが……。

☆どうして、こういう風になったのでしょうか。戦争やテロが原因なのでしょう。

浩 9・11以降、アメリカを先頭に先進国が、テロリストとテロリストをかばう国々

川でスベって山でコロんで……とってきました

# Interview

第14回 山田浩子先生(横浜西教会)



をターゲットにして、戦争を起こしてきました。テロリストが出てくる原因を考えずに、消去することだけを選択してきた

ように思います。それはゲームの【リセット】と似ているように思えます。☆ゲームじゃないから、リセット出来ませんし、未だに各地でテロが発生

していますよね。

浩 先回りの対策をしすぎているか、余計に敵を増やすようなことになっていないか。余計にします。国同士がそういう状態だから、人同士もギクシャクしてきてしまうのでは。

☆金光教を信じる者にとって、こういう時代にどうあるべきだと思いますか。

浩 私は、今こそ「祈り」と「お取次」が大事だと思っています。教祖様が大事にして来られた基本の事ですが、今なんとなく不安定なこの時代こそ、大切なことだと思います。

最近、本当にお届けしたい事柄を「恥ずかしい」「軽蔑されるかも」と思って、お届け出来ないご信者さんが結構おられると聞きました。教師側は何でも聞いてあげ、お届けしやすい雰囲気を作っていくことが大事ですが、その為には「祈る」ことで自分を見つめ直し、御取次の御用に使うける身にならなければいけないと思います。また、ご信者さんは、思い切って御取次を頂くことで、問題が整理され、より具体的に祈ることが出来るようになって、助かる道が見つかります。

祈ることは、神様と繋がることです。神様と繋がる事が出来れば、人を攻撃したり、疑ったりすることよりも、その人を苦しめている状況に目が向き、思いやりが生まれてくると思います。そのように、このお道の信者が助かり、神様と繋がる事が、世の中を変えていく一歩になるのです。「祈ることしか出来ない」ではなく、「祈ることが出来る」ことに感謝して、信心を進めさせて頂きたいと思えます。☆ありがとうございました。

## このお道の信心の基本目標

一、疑心を離れて広き真の大道を開き見よ  
我身は、神徳の中に生かされてあり、この「生かされてあり」と言う事を失うてなくしては、お道の信心はない。

二、神は我本体の親ぞ、信心は親に孝行するも同じ事。

私共は、頭の前から足の爪の先まで、親神様から頂いたもの。しかしながら人は、口先のお礼も申し上げないで、自分を自分のものだと勝手に決め込んで、自分の間違いは棚に上げて親神様に願って、自分の思うようになれば自分の力のように思い、思うようにならないければ、親神様もあてにならないと思ったりします。そのような思いのどこに真があり、どこが信心でしょうか。そういう人を恩を知っている、真の氏子と言えるでしょうか。信心とは、恩を知るに始まるのです。

根本から信心の方針が違っていないでしようか。天地のお恵みを受けなければ、一本の木も栄えていく事は出来ないと同じ事で、人が人として生まれてくることも、生きていけるといふことも、貴い人間として、万物の霊長としての社会生活も、ご神徳を蒙らないで出来るものではないことを、信じるのが信心であります。人間は、生きて大きくなるのも、人の力だけでは出来ません。

元々、日々の生活そのものが、多くの人は、自分の力で働いて、自分の力で生活出来ると思ひ、お願いさえしなければ、親神様に苦勞をかけたなり、お世話になつていないと考えていると思ひます。

しかし、事實はそうではなく、お互いが、今朝頂くご飯も、昼に頂くご飯も、身につけている服や着物も、一杯のお茶も、みな親神様の賜物であります。

人間の生活のもととはご神徳であり、人の働きは末の一部であります。

また、その働けるのも、親神様のおんものですから、親神様を放れて、私と言うものは、全くないのであります。自分では、一息の呼吸も出来ない私に、親神様はおかげを下さり、それが積もり積もつて今日があるのです。自由が与えられて、自由なのです。言葉の自由を頂いているので、このように話すことが出来るのであります。

親神様は、人が針ほどの働きをすれば、棒ほどにして恵み与えて下さり、全てを一粒万倍にしてお恵み下さるのであります。ところが微力な人間が、わずかの働きをして生活出来る、「自分が生活するのである」と、思い誤っていないでしょうか。全てのことを親神様のおかげと喜び、「自分がするのでない。親神様の無限の愛、無限のお力とに育まれて、初めて、

(3頁に、続く)

## 神秘なるかな種というもの

種に惹かれるようになったのは何時の頃からだろう。二千年も前のハスの種が発芽したことを識った時もまだ、単に大昔の種が甦ったことくらいにしか捕らえていなかったように思う。しかし、喉に良いというカボチャの種は、野草といっしょに煎じて飲んではいたが、このところ、スイカやキウリの種ですら、つい食べてしまいたくなるのである。そして、何千年も前のハスの種が生きていたという驚くべき事実を改めて噛みしめているのだ。

梅の種の中身は体に良いと聞いている。胃酸で溶けると言つて平然と種を呑み込んでいる人もいるにはいるが、大抵はわざわざ固い殻を割るのも面倒なものだから、体に良いとは知りつつも捨ててしまふ。

先日、梅酒や梅ジュースにすると、割ると言う手間がなく、そのエキスがいただけるということを聞いた。それではと、今年は梅酒や梅ジュースに加えて暑い夏の清涼飲料水にと酔にも漬けてみた。新たな価値が加わって梅の作品づくりにも精が出たのだ。

そう言えば、以前に、ピワの種も中身がガンに効くと言うので、それならばと、果実をいたたく度に焼酎に漬けたことがあった。それが、種の中身が滲み出たのか、杏仁豆腐のような香りがして珍味なのだ。か

## 教師・信徒懇親会に参加して

大塚 東子

7月29日(土)、かながわ県民センター4階の会議室にて『教師・信徒懇談会』が開かれました。平成12年に信徒主導で立ち上げた「金光教を考える会」が下敷きになり、元氣のない金光教をどう見、どう考えるか、どうすれば活性化できるのか、というテーマのもと、昨年と同時期に懇談会を持ち、信徒3人が発表しました。今回は、昨年の発表・懇談に続いて、午前中3人の先生方に意見発表をして頂き、午後はそれを受け形で、懇談を持ちました。

横浜西教会の山田尚子先生は、お父君・福田源三郎先生の奇跡的なおかげ話を例に引きながら、昔は、こういうおかげ話がたくさんあった。私たちは、その頃と変りない、同じ神様を信じている。おかげを下さる神様を信じているのである。今の世に悩みが無いわけではなく、それどころか悩みを抱えている人がたくさんいる。「金光教の教会に行けば、必ず助かるのよ」と自信を持って話してほしい。そして悩みを抱えている人を、教会に連れて来てほしい。また家族に信心を伝えてほしい。源三郎・みち先生ご夫妻は、「しつけなんかどうでもよい。子供には神様の有難いことを伝えておけば、それでよい」とおっしゃっていたが、それくらい気持ちで子供を育ててほ

(前頁から続く)

われここにあり」と白覚し、日夜の感謝の生活をさせていたいただくのが大切であります。

そのように、信心と生活がひとつに結びつけられていくのが、親神様の御心に適う信心生活だと思います。

(生麦教会 今村 国広)

しい。

平塚教会の奥川美智雄先生は、お父様のご兄弟は4人ともお道の教師になつてい。自分は四男で、父の跡を継いで教師になつたが、他の兄弟は誰も教師になつていない。このことから、今の世に、教師になることの難しさが象徴されているように思う。平成17年に教会長に就任、どうすれば、参拝しやすい教会。明るく楽しく元氣の出る教会。また参拝したくなる教会になれるのか、と心を砕いてきた。教会だよりを発行したり、遠くに引越した信者さんたちにそのたよりを送ったり、入口の扉を入り易いものに替えたり、いろいろ工夫をしている。これからもいろいろ考え工夫して、努力を続けていきたいと思うし、信者さんたちも、例えば今日この場に来ている信者さんに、こういう話があった、というように「伝える」努力をしてほしいと思う。鶴見教会の桜井信一先生は、金光教は生まれて一五〇年のいわば、まだヒヨコの宗

と言って、高価なピワは度々いただけのもでもないで、我が家の秘伝として密かに楽しんでいた。今年は、その種欲しさに植えたと言う妹のところからピワを大量に送ってもらったので、少しは他の人にも味わってもらえるかも知れない。

中華料理の杏仁豆腐は好物のひとつである。それまでは、牛乳とアーモンドエッセンスで作っていたが、薬膳料理教室で杏子の種から取り出された粉で作ることを教わり、種への認識が一層確かなものになるよう、嬉しくて仕方がなかった。それからしばらくは、杏子の粉を探し求めては、ことあるごとに種の感動を伝えつつ、杏仁豆腐をふるまったものである。

毎日お世話になつていのが、柚子の種の化粧水である。柚子が色づく頃になると流しの側に20度の焼酎を入れたびんを置いておき、柚子を使う度に種をその中に入れる。どこからそのトロトロ液が出てくるのかと思うほどに、びんの底には、ゼリー状の液が溜まっているのである。昨年は、あちからこちから柚子が送られてきて少々あわてたが、焼酎漬けにジャムに柚香漬けにとたっぷりと使わせてもらった。勿論種もろとも無駄になるところは一つもない。私は久しく風邪をひいたり寝込んだりしたことがない。もしかして種のお陰かも知れない。(鎌倉教会 吉岡裕子)



教であるが、千年後も生き残れるように、今頑張らねば、と思う。教師が即ち立派な人、リーダーというのは幻想だと思っほしい。自分が育っている段階なのに、人を育てることなどできない。教義についてなら勉強して話せるかもしれないが、「では実生活で、お前はどうかなのだ？」と言われたら、忸怩たるものがあるし、生きた教えを説け、と言われても、難しい。教師の育成は本人の資質もあって難しいが、やはり、教団として、教師の教育システムが必要だと思ふ。金光教は自由で、何を言っても何をしてもいいのは有難いが、例えば祭式でも直会でも、かなり変わってきている。金光教独自の吉備楽というものがあつながら、エレクトーンやコーラスに変つていくのは、簡便に過ぎないだろうか。信者さんについては、信心生活をしてほしい。信心が生活に現れていないから、孫子に伝わっていかないのでないか。また、頼りない教師に任せておかず、信者さんの中から、教師を指す人が現れてほしいと思ふ。

以上は、字数が限られている中で、乱暴な括り方で申し訳ないのですが、私の聞いた中から印象的な一言、言葉を中心にまとめたものです。

午後は、懇談に移り、活発な意見交換が行われました。私が司会をしていた関係で、きちんと記録を残していないのですが、印

象的な発言を列挙しますと、信者の側にも、教師を育てようという努力が要るのではないか。例えば、朝のご祈念を続けていて、一人も朝参りの信者がいないのは、寂しく辛いものだ。先生を発奮させる意味でも、朝参りをしよう。また、先生にどんだん質問をしよう。先生がいやでも勉強しなければならなくなるように。全国的な規模で、大々的にアンケートを取ってはどうか。できるだけ、分母は大きいほうが正確な結果が期待できる。そこから、金光教の現状、信者が求めているものなど、いろいろなものが見えてくるはずで、対策も立てやすい。そもそも「金光教を考える会」の活動が始まって六年になるはず。「まとめ」を出すのに、どうしてこんなに時間がかかるのか。金光教は何をするにも時間がかかりすぎではないか。折角こういう会を持って、本音の意見が出てきたのだから、ここから次をどうするか、考えたい。このままで終わらせることのないようお願いしたい。などの意見が出ました。来年度は、現在活き活きた教会活動を続け、おかげを頂いている、他県の先生をお招きし、教会の現状を率直に語って頂き、学ぶ、という一泊研修会の企画を検討中です。泊まらなくても一日だけの出席も可能です。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

(神奈川教会 信徒)

## 〈な・が・れ〉

### 『確かなもの』

大磯教会 小島米夫

大磯の里の道端にも、イガ栗が見られる様になり、今年も四季の移り変わりに、確かな天地の働きを感じさせていただいております。一方、「タガが外れる」と表現される様に、秩序が乱れ、価値観の多様化が進み、親子の関係も、教祖様が「神と人間の関係」と言い表された様子も、通用しなくなると思われる事件や現象も多く報道され、生活しにくい世の中になっていきます。

四代金光様の歌集の「よい生き方のために」(金光教徒社発行の「生きる力の贈りもの」第四部に掲載)の項目に、「くりかへす稽古のなかにおのづから生まれ来るなり新しきもの」という、明るい未来を表すような、私の好きな歌があります。一方、天地の神様は、嫌いな事がありとこの事。私達は、この不安定な世の中で、「よりよい生き方のために」を表すため、不平、不満、不足を表さない、思わない、ような稽古を少しでもさせていただき、子や孫の世代に、「確かなもの」「安心なもの」を残せるようにしたいものです。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 須賀院 明德

編集責任者 横山 光雄

川崎市中原区小杉御殿町二一八二

〒211-0068 金光教武蔵小杉教会内